

令和3年度 自己評価表（最終評価）

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 確かな学力の育成	○学力の向上			・各教科一人以上がアクティブ・ラーニングの公開授業及びルーブリック評価を実施 ・外部講師招聘による授業研究会を実施	C	・各教科ともアクティブ・ラーニングの公開授業及びルーブリック評価を実施した ・県内教員のオンライン参加及びリモート指導助言をいただいて授業研究会を実施	A
	・基礎的な知識および技能の向上	・アクティブ・ラーニングに関する研修を全教科で取り組んでいる。 ・ICT機器を活用した授業等は取り組んでいる。	・組織的、計画的に授業改善を推進し、生徒が主体的に学習に取り組んでいる。	・ICT機器の授業活用が教員全体の85%以上を目指し、GoogleWorkspaceの活用、BYAD対応など研修を実施 ・Find!アクティブラーナー活用による授業改善の更なる促進	B	・分割授業や分散登校もあり、ほぼ100%の教員がGoogleWorkspaceを活用したオンライン授業を実施 ・Classroomの活用など校内研修を複数回実施、Googleによるオンライン教員研修も3月に実施予定	A
	・主体的に学習に取り組む態度の育成	・評価方法を研究するとともに、更なる授業改善を推進する必要がある。 ・高度資格取得の合格率は66%である。	・系列の特色化と資格取得を促進し、高度資格試験合格率70%以上	・各系列ごと学校独自事業の充実、特別支援学校との交流 ・高度資格試験(英検2級、ビジネス文書1級等)の受験を促し、合格に向けてのサポート	D	・Find!アクティブラーナーの活用推進が遅延(2月16日現在204PV) ・教科によっては紹介されている教材等が少なく活用する場が少ない	D
	○思考力、判断力、表現力の更なる向上		・SDGsの視点を導入し、探究学習を深化させ課題解決能力を高める。	・地域経済分析システム(RESAS)を活用した「新商都米子まちづくり2021」と「地方創生アイディアコンテスト」及び「高校生ビジネスグランプリ」へ応募し、成果を米子市に提案	B	・施設実習等、実施できない事業もあったが、感染症対策を行い校内で実施 ・屋外での活動や、オンライン・リモートを利用した事業は実施 ・特別支援学校との交流もリモートで実施	A
					B	・2年次生で英検2級合格があり、来年度に向けて準1級へサポートを計画中 ・フワワー装飾技能検定3名、ビジネス文書実務検定1級2名、1級文書1名、1級速度1名が合格	B
2 豊かな人間性の育成	○基本的生活習慣の定着	・遅刻者数は前年比14%減少した。遅刻確認票の効果がみられるが、更に規範意識を向上させる必要がある。より一層主体的に活動する意欲を高める必要がある。 ・問題行動ゼロは達成できなかったが、殆どの生徒が規範意識を持って生活している。 ・自転車ヘルメット着用は15%である。 ・外部機関(SSW、児相、医療機関、要対協)との連携を密にし、早期に対応することができている。 ・学校生活アンケート(1月)で自己肯定感を認める生徒は59%である。	・遅刻者数が前年の15%減少 ・規範意識・安全意識の向上と排除の徹底 ・自転車ヘルメット着用率50%以上	・遅刻確認票による遅刻指導の更なる強化 ・米子高生としての自覚を促す行動の啓発 ・SNS対策を中心とするデジタル・シティズンシップ教育の推進 ・自転車ヘルメット着用推進モデル校として、安全意識向上を図るため機会を捉えて啓発・指導 ・排除の徹底と整理・整頓の推進、あいさつの励行	B	・一部の多遅刻者があるものの、全体の遅刻者数は前年に比べて16%減少した(1月末現在)	A
	○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)		・生徒の各種活動への積極的参加	・生徒会執行部による各種自主的活動の充実 ・マスコットキャラクターの制作 ・部活指導員・外部指導者の活用による部活指導の充実と時間外業務削減(月45時間以下、年間360時間以下の遵守) ・アメリカ・韓国の姉妹校とのオンライン交流 ・生徒会による「はるかかのひまわり絆プロジェクト」の実施	B	・問題行動及びSNSのトラブルが発生したが、迅速に対応した。 ・デジタル・シティズンシップに関わる講演などにより教育を推進したが、未だ生活に活かされていない生徒が若干見受けられる。	B
	○支援が必要な生徒への援助		・生徒情報共有し適切なサポートができている。	・研修会による情報共有と委員会等による適切な対応	D	・ヘルメットをかぶっている生徒は、ごく少数で、50%に達していない	D
			・豊かな人間関係を築き、共に生きる力を育み、主体的に考え行動できる生徒の育成	・生徒会執行部による各種自主的活動の充実 ・マスコットキャラクターの制作 ・部活指導員・外部指導者の活用による部活指導の充実と時間外業務削減(月45時間以下、年間360時間以下の遵守) ・アメリカ・韓国の姉妹校とのオンライン交流 ・生徒会による「はるかかのひまわり絆プロジェクト」の実施	C	・挨拶をしない生徒が依然としてある。 ・多くは積極的に排除・挨拶に取り組んでいるが、一部できていない生徒がいる	B
	○キャリア教育の発展	・産業社会と人間・テーマ学習(R2)が進路実現に反映されている。 ・大学進学者が減少 H30年度25名(9名) R1年度20名(3名) R2年度16名(3名) ()は国公立	・教員の指導力向上と外部指導者の活用 ・生徒が進路目標を明確にし、その実現に向けて努力する態度の確立 ・大学進学20名、(内、国公立大学5名)	・高校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答する生徒が70%を超えるようきま細かにサポート ・人権学習委員が主体となって活動できる人権教育LHR運営の構築	B	・青雲祭、荒鷲祭、球技大会を生徒会執行部が中心となり企画し、主体的に運営できた。 ・マスコットキャラクターはデザインが決定し、ネーミング募集、着ぐるみ制作が進行中	A
	○進路指導の充実			・部活指導員の活用により該当部活動における時間外業務は35%減少 ・アメリカ・韓国の姉妹校とのオンライン交流 ・生徒会による「はるかかのひまわり絆プロジェクト」は計画通り実施し、神戸に送るための種も生徒会執行部が選別した	A	・部活動指導員の活用により該当部活動における時間外業務は35%減少	B
				・研修会による情報共有と委員会等による適切な対応	B	・外部機関(児相、医療機関、要対協)との連携を密にし、早期に対応することができた。情報共有に関する会議等は予定通り実施	B
				・高校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答する生徒が70%を超えるようきま細かにサポート ・人権学習委員が主体となって活動できる人権教育LHR運営の構築	B	・第2回中学校生活アンケートについては、分析評価に繋げられる質問内容を検討していたが、未実施 ・人権学習委員を全学年配置し、人権教育LHRの運営に携わったが、更なる活動の活性化が課題	C
				・総合的な探究の時間にSDGsの視点を導入し、系統的なキャリア教育の再構築 ・キャリアパスポートを活用し、自らの成長を実感できる取組み ・学習成果発表会における他校生徒との連携 ・教員研修と進路希望検討会を充実させ、探究活動を活用した進学・就職への対応 ・看護・医療系進学希望者の職場体験の実施と進路実現	B	・2・3年次生の「探究」の時間にSDGsの視点を導入し、1年次生においてもSDGs講演会を予定しており全学年を通じた系統的なキャリア教育の構築に努めた	B
				・キャリアパスポートを活用し、自らの成長を実感できる取組み ・学習成果発表会における他校生徒との連携 ・教員研修と進路希望検討会を充実させ、探究活動を活用した進学・就職への対応 ・看護・医療系進学希望者の職場体験の実施と進路実現	C	・キャリアパスポートを予定どおり作成し、生徒が学期ごとの振り返りで成長を実感している。 ・進路指導におけるキャリアパスポートの活用方法について検討が必要 ・学習成果発表会は実施できたが、コロナ禍の影響で他校との交流は実施できず。今後リモートを活用した方法などの研究が課題である	B
4 地域との連携による学校づくり	○地域へのニーズに応じた地域貢献	・地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。 ・学校運営協議会では熟議を重ね、生徒会とともに「はるかかのひまわり絆プロジェクト」に取り組んだ。	・文化芸術活動の拠点校として、地域のニーズに積極的に応える。	・学校運営協議会を活用した地域連携活動の推進 ・中学校アクティブ・ラーニング出前授業、地域の教育活動拠点としての生徒活動の活性化 ・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」「プログラミング教室」による地域貢献の推進	A	・書道は愛サポートととり参加。美術漫研部はFEEL表紙、米子市環境課看板、ポスター等制作 ・新型コロナウイルスの影響により吹奏楽部定期演奏会は中止、ハイボットダンスフェスティバル、演劇部公演はコロナウイルス対策を行い実施	A
				・中学校アクティブ・ラーニング出前授業、地域の教育活動拠点としての生徒活動の活性化 ・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」に予定どおり実施した ・「プログラミング教室」も初めて実施し地域の小学生の参加があった。	C	・コロナ対応で開催時期を変更して2回しか開催できなかった ・プラントナーの提供、ふれあいロード看板デザインなど、地域の小・中・公民館と協力して活動を推進した	B
				・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」に予定どおり実施した ・「プログラミング教室」も初めて実施し地域の小学生の参加があった。	C	・コロナ禍で未実施	C
	○積極的な社会参画と情報発信		・社会につながる教育活動を推進する。	・「高校生出前キャリアガイダンス」の充実 ・総合美術展の開催による情報発信	B	・花壇用草花植栽活動、イチゴ栽培・収穫共に予定どおり実施した ・「プログラミング教室」も初めて実施し地域の小学生の参加があった。	A
					B	・中学校9校で予定どおり実施し、中学生への学校説明と面接説明を行い高評価であった	A
					B	・コロナ対策を行い、予定どおり実施し情報発信できた	A

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要